



## Ki-Bi Lab. 48時間デザインFunRun

経緯：障がいのある人の芸術文化活動の振興及び障がいのある人の自立と社会参加の促進を図るため、オフィシャルグッズをコラボして作りたいことを相談受けた。目的：商品作成や販売を通じて、社会全体に「障がい者アート」への理解が広がることを願い、情報発信する。

実行者の想い：この事業の取組みは、障がい者（クリエイター）とデザイナーがチームを結成し、2日間という限られた時間の中で、商品化に向けたデザインを制作する取組。社会の中に創造的環境をつくることで、障がいのある人たちの芸術文化活動の振興、自立と社会参加が図られ、多様性のある文化の発信ができればと願っています。

**活動場所**：岡山市栄町商店街

**取組テーマ**：ダイバーシティ（共生社会）

**協働者**：NPO／行政

**協働者名**：主催：岡山県備前県民局、協力：NPOハートアートリンク、FabLab Setouchi B

### 活動で工夫した点

デザインの個性を生かせるアイテム選び。印刷範囲が広く、色も多く使えること、単価が高くなりすぎないこと、日頃から使用してもらえるアイテムにすることなど。選手が特定できる絵やオフィシャルマスコット（肖像権）の絵は避け、クラブカラーを配慮したデザインを依頼した。

### 活動で大変だった（苦労した）ポイント

スケジュール決め。①観戦日②デザイン作成③デザイン調整④デザイン確定⑤グッズ制作⑥販売日調整

### クラブや地域の活動後の変化

障がい者との接点が協働事業によって生まれ、デザインしてくださったグッズが具現化したことをとても喜んでくださった。周囲からもとても良い取り組みだと評価いただいた。



### 協働者の声

主催：岡山県備前県民局：（想い）ファジアーノ岡山と2年連続でこの取組を実施することができました。障害者アートを活用したデザインの価値は、まだまだ認知度が低いのが現状です。そのデザインが、地元にも広く愛されるクラブの公式グッズに採用・販売されることで、多くの方に興味を持っていただけるきっかけになればと思い、地元NPO団体とも連携してこの取組を行っています。（感想）デザインを制作する前に、参加者全員でファジアーノ岡山のホーム試合を観戦しました。参加者は、会場が一体となって応援の渦がうまれた感動をしっかりと胸に刻んだ様子で、その後のデザイン制作ワークショップがとても充実したものになりました。採用されたデザインをあしらったナップサックとハンドタオルが、公式グッズとしてホーム試合会場でもうすぐ販売されます。たくさんのサポーターの手元に素敵なデザインが届き、この取組が広まっていくことを願っています。

### 参加者の声

クリエイター：「是非次回も参加したい」「みんなで楽しく大きな作品ができたことが良かった」 デザイナー：「互いの意見を交えながら、チームとして楽しく作業ができた」

### 活動の「ここぞ！」というPRポイント

地域の活動でファジアーノ岡山が必要とされ、クラブを活用してもらうことでその活動に取り組むエネルギーや発信力が増大する。そのようなことに少しでも寄与できればこの事業に参加しています。

### 補足